

013

編集長独白

015

表紙の時計／パテックフィリップ ノーチラストラベルタイムクロノグラフ Ref. 5990／1A

016

Editor's Choice!

ブランパン ヴィルレ8デイズ／ショーマ オルタンシア トウルビヨン／ウブロ ビッグバン ウニコ オールブラック／ブルガリ ルチエア／フレデリック・コンスタント スリムライントウルビヨン マニファクチュール／ジラル・ペルゴ キャッツアイブルーム／ボヴェ スポーツスター クロノグラフ 日本限定／ラルフローレン スポーツティン グコレクション クラシック クロノメーター

024

世界は時計で回っている。

026

A. ランゲ&ゾーネ

リヒャルト・ランゲ パーペチュアルカレンダー・テラルーナ

028

ヴァシロン・コンスタンタン・メティエ ダール・メカニカル・アジュレ

工芸技法のハーモニーが生み出す美

030

ブランパン フイフティ・ファズムス・バチスカーフ 2014年モデル

デイリー・ユースのスポーツ・ウォッチを目指して

032

モンブラン CEO ジェローム・ランベールさんに訊く

034

ピアジェ アルティプラノ 38mm 900P 新作薄型時計にみる画期的試み

036

日本に上陸したウルベルク アヴァンギャルドの根底にある伝統

038

カシオ Gショック スカイコクピット GPRW-1000

ハイブリッドで新時代の幕を開けた電波時計

040

ロジェ・デュブイさんに訊く——ジュネーブ様式に捧げた自分への最後の贈り物

043

チエコ唯一の腕時計メーカー

プリムを訪ねて

1949年、チエコスロバキアの国営工場からスタートした腕時計メーカーが今日もチエコ唯一の腕時計ブランドプリムとして存続する。自社でムーブメント、ケース、文字盤、針を製造するマニファクチュールだ。今秋から日本市場にも上陸するプリム取材した。

055

創業130周年を迎えたブルガリの時計製造

明確な個性の確立に向けて

宝飾からホテルまで、幅広く展開するブルガリのなかでも、今日、腕時計は大きく発展する。自社製造のスタンダード・モデルから複雑時計まで、イタリアン・デザインとスイス時計の技術を融合したコレクションが充実している。創業130周年のブルガリの時計製造をとらえる。

071

ルディ・シルヴァ

農民時計師の時代に敬意を表して

078

ショパールの現在

独立を維持するための広範な努力と拡張

092

H. モーザー

新体制下で進む、改革とブランドの確立

2012年、新体制となったH. モーザーは現在、CEOエドワード・メイランさんの下、品質の改良、コレクションの再編成を通してブランドの確立に向けて積極的な展開をしている。最新作を含め、H. モーザーの現況取材した。

102

ラドー・ダイヤマスター RHW1 リミテッド・エディション

104

パネライ ラジオミール 1940 クロノ モノプルサンテ エイトデイズ GMT オロビアンコ

108

時計ジャーナリスト 瀧澤 広の「マイ・チョイス」 第15回

ユニーク・ウォッチ・レッセンス

110

腕時計新着情報

118

オーデマ・ピゲ・アートコミッション プロジェクト

119

ヴァシロン・コンスタンタン 日本・スイス国交樹立150周年記念 スイス・ロマン管弦楽団公演

120

オフィチーネ パネライ写真展 パッションフォーザシー

121

フレデリック・コンスタント マニユファクチュール・ムーブメント10周年記念イベント

122

インフォメーション

124

メーカー&ショップリスト

128

次号予告

チェコ唯一の腕時計メーカー プリムを訪ねて



今日、世界各国からの観光客で賑わうチェコ、プラハ。その旧市庁舎の塔の下に15世紀に作られたという見事な天文時計がある。上のディスクは天動説の天体の動きを示し、1年に1周する。下は黄道12宮と農村の四季の作業が描かれ、1日にひと目盛動く。この時計はそれだけではない。内蔵された仕掛けが中世チェコの高度な機械技術へと思いをめぐらせる。

取材・文／香山知子(本誌編集部) 写真／宮本敏明(取材)、青木健格(WPP/P45)、熊谷喜久(WPP/P52~53) Special thanks to Ms. Yumiko Klement

創業130周年を迎えた
ブルガリの時計製造

明確な個性の 確立に向けて

ブルガリの時計製造分野の飛躍が目覚ましい。
2000年に始まる垂直統合の成果が次第に
実を結び、スタンダードなコレクションから
ハイコンプリケーションに至るまで、個性豊か
な新作がバーゼルワールドの話題を作っている。
時計の世界で、ブルガリが目指す道を取材した。

取材文／香山知子（本誌編集部）
写真／宮本敏明（取材）小野静穂（P.68～69）、熊谷義久（WPP／P.57、P.61、P.70）



「ブルガリ ダニエル・ロート カリヨン トゥールビヨン」に搭載される、2014年
に新しく登場したムーブメントで、NAC表面処理を施したブリッジにダイヤモンド
ドをセットした、Cal.3300（35石。毎時2万1600振動。パワーリザーブ約75時間）。
複雑時計の技術とジュエリーの側面がひとつとなり、今日のブルガリを象徴する。

ルディ・シルヴァ

農民時計師の時代に敬意を表して



2006年に創業、09年にハーモニアス・オシレーターを発表したルディ・シルヴァは、機構もコンセプトも時計業界のなかでは異色だ。農民たちが時計製造に取り組んでいた時代へのオマージュ、そして山間の村に暮らす現代の職人たちへの尊敬が根底にある。

取材・文／香山知子(本誌編集部) 写真／宮本敏明、ルディ・シルヴァ Special thanks to Ms. Masami Nakamura Fuez

シヨパールの現在

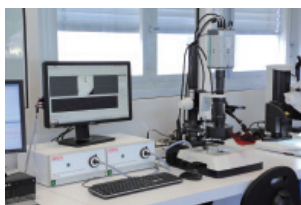
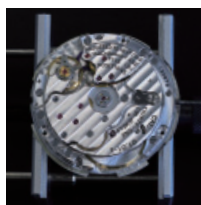
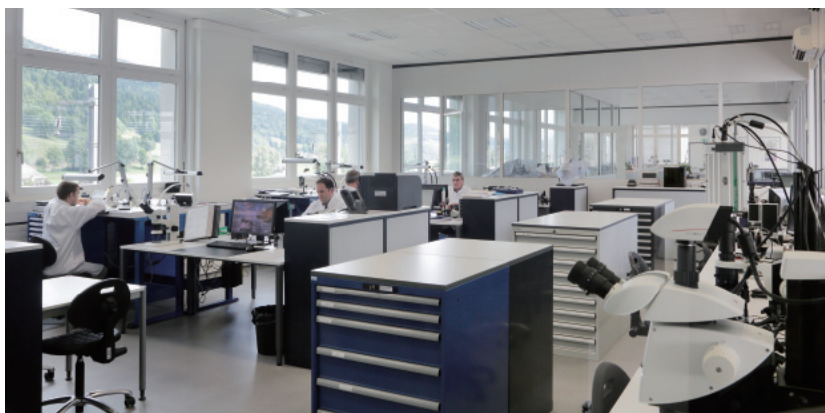
独立を維持するための広範な努力と拡張

2013年、シヨパールはシヨイフレ家の経営権取得から50周年を祝った。家族経営を保ち続け、今日では時計と宝飾を核に、バッグ、香水など幅広いアイテムを揃えるブランドに発展した。フルリエで製造される自社ムーブメントを中心に、シヨパールの時計製造の「現在」取材した。

シヨパール テクノロジー & シヨパール マニファクチュール



スイス・フルリエのシヨパール マニファクチュールは1996年、すなわちL.U.C.の最初のムーブメントを発表した年に開設された。当時は建物の一部を間借りした工房だったが、2000年にはビル全体がシヨパール所有となった。現在、約160人がこの工房で働く。



シヨパール テクノロジー社には最新のテスト機械が並ぶ。高速カメラを使った秒針のブレのチェック（下の写真中央）や、振り角のチェックなど、品質向上のための検査が行われる。

ジュネーブから北へ、フランスと国境を接するジュラ山脈地方のトラヴェール溪谷にあるフルリエは、19世紀から高級時計製造が行われてきたが、今日、その中心となるのがシヨパールだ。1996年、シヨパールはL.U.C.発表とともに自社開発、製造ムーブメントの拠点としてシヨパール マニファクチュールを開設した。7年前にここを訪れたときには100名規模だったが、現在では約160名が働き、L.U.C.の製造個数も約3000個から約4500個へと成長を遂げている。

2012年には作業効率を上げ、不良品を少なくするために、リーン生産方式を採用し、合理化を図っている。その一方で、伝統的な手作業には今まで以上に重きが置かれる。たとえば機械加工で製造されたブリッジの90度の角を手作業で45度にまで磨き、面取りを行うアンダールーズやトゥールビヨン・ブリッジの鏡

H・モーザー

新体制下で進む、改革とブランドの確立

優れた時計師であり、成功した起業家であったハインリッヒ・モーザーの偉業を称えて復活したH・モーザーが2012年、新たな扉を開いた。「製造業の基盤は質の良い魅力的な製品にあるべきだ」というハインリッヒ・モーザーの言葉を実現するための改革が進んでいる。



(上) CEOのエドゥアルド・メイランさんは1976年、ル・ブラッシュ（スイス）に生まれ、ローザンヌ工科大学でマイクロテクニクを専攻。コンサルティング会社、商社に勤務した後、米ペンシルバニア大学ワートン校でMBAを取得。(下) スイス・ノイハウゼン アム ラインファルの本社では現在、約50名が働く。

2002年、H・Moser & Cie.の名が時計の世界に蘇った。しかもかつてこの名前の工場が存在したル・ロツクル（スイス）ではなく、H・モーザー、すなわちハインリッヒ・モーザーの生まれ故郷であるスイス北東部のシャフハウゼン州に新たに設立された時計メーカーの名前として登場した。その前年、シャフハウゼンにヒゲゼンマイを製造するプレシジョン・エンジニアリングを設立したユルゲン・ランゲ博士が、過去のH・モー

ザーの時計の復刻を目指してハインリッヒ・モーザーのひ孫にあたるロジャー・ニコラス・バルジガーさん（現名誉会長）とともにH・モーザーを創設したのだった。独特の表示の永久カレンダー、シュトラウマン・ダブルヘアスプリング、脱着式の調速・脱進機など、いくつかの特徴は新進時計メーカーの名を時計愛好家の間に短期間に広めるには十分だった。しかしそれらの特徴は実際には多くの問題を生み、経営困難を導くこととなった。そ

して12年10月、MELBホールディングスが筆頭株主となり、経営権を得たことで、生き残る道を開いた。

MELBホールディングスはオーデマピゲのCEOを13年にわたって務めたジョージ・ヘンリー・メイランさんが06年に創設した家族経営の会社で、現在、時計ではH・モーザーのほか、オートランズなどを有する。また医療、不動産分野のビジネスも展開している。13年4月には、メイランさんの長男、エドゥアルドさんがH・モーザーのCEOに就任した。

「H・モーザーはまったく利益がなく、しかも非常に大きな損失を抱えていました。手作業が多いため工作精度も作業効率も悪く、製造に無駄な時間がかかり、また製品も不具合が多かったのは事実です。製品を製造する、というよりひとつひとつプロトタイプを作っているようなものでした。また何をしたいか、という明確なビジョンもなかった。しかし歴史的な背景、ユニークな製品、そしてアイデン

ティティがありました。つまり大きな可能性を秘めていると判断しました。私たちはまず品質の改良と効率を上げる努力をし、また多額の投資も行っています、これから投資は続きます。しかしユルゲン・ランゲ博士の功績は尊重するべきだと考えています」

今日、H・モーザーは「VERY RARE（極めて希少な）」を謳っている。その理由として、起業家精神をもったファミリー企業であること、全製品を自社工房で組み立てていること、そして創意工夫に満ちた時計で、複雑機構であってもシンプルで実用的であり、またより良い時計を作るために力を結集していることを挙げる。

そして今年のバーゼルでは新体制下になって初の新作「ベンチャー・スモールセコンド」が発表された。ミモテック社の協力を得たシリシウム製部品、固定された調速・脱進機、新たな外装デザインなど、過去から脱した冒険的な意欲作だ。